

## 断熱性能に関する評価の見直しについて

## 1. 非住宅用途における評価

## (1) 現行の環境計画書における PAL\*に関する段階設定

	PAL*低減率
段階 3	20%以上
段階 2	10%以上20%未満
段階 1	0%以上10%未満

## (2) CASBEE における PAL\*に関する段階設定

	BPI (PAL*低減率)
レベル 5	0.80以下 (20%以上)
レベル 4	0.90 (10%)
レベル 3	0.97 (3%)
レベル 2	1.00 (0%)
レベル 1	1.03以上 (-3%以下)

・現行の環境計画書での「段階 3」と、CASBEE の「レベル 5」が同じ水準。

## (3) 再構築後の評価の方向性

- ・ 現行制度での PAL\*低減率による評価を継続  
⇒ 評価段階の基準は、現行の環境計画書での記載状況 (PAL\*低減率の値) を考慮した上で検討  
(参考) 非住宅用途における断熱性能 (PAL\*低減率) について【次ページ参照】
- ・ 窓や外壁等における外皮性能に基づく評価の導入を検討  
⇒ (参考) CASBEE での評価項目  
Q1 2.1.2 外皮性能  
→ 窓システムの日射遮蔽係数、熱貫流率  
外壁の熱貫流率

## 2. 住宅用途における評価

## (1) 現行の環境計画書における段階設定

	断熱等性能等級 (品確法)
段階 3	等級 4
段階 2	等級 3
段階 1	等級 2

## (2) CASBEE における段階設定

	断熱等性能等級 (品確法)
レベル 5	※ <sup>1</sup> 等級 4 超
レベル 4	等級 4
レベル 3	等級 3
レベル 2	等級 2
レベル 1	等級 1

・現行の環境計画書での「段階 3」が、CASBEE の「レベル 4」または「レベル 5」に相当。

※ レベル 5 は、「共同住宅における全住戸平均外皮性能値」の低炭素建築物認定基準を用いる場合の外皮性能適用条件を満たすこととする。

## (3) 再構築後の評価の方向性

- ・ 現行制度における評価において、「段階 3」の取得率が非常に高い  
→ 住宅用途の 86% (平成 28 年度)
- ・ 現行制度の「段階 3」に相当する建物の評価を細分化するための基準の検討  
⇒ 現行の評価方法に加え、 $U_A$  (外皮平均熱貫流率) 等の性能基準による評価導入を検討

(参考)  $U_A$  (外皮平均熱貫流率) に関する基準値

$U_A = 0.60 \text{ W/m}^2 \text{ K}$  (ZEH・Nearly ZEH に適合するための強化外皮基準)

$U_A = 0.87 \text{ W/m}^2 \text{ K}$  (断熱等性能等級 4 相当)